

平成23年3月期 第2四半期決算説明会

平成22年11月8日



ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents

- 
- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1.第2四半期(累計)業績の総括 | 13.期初の予想・上期の現況・今後の方針について |
| 2.第2四半期(累計)の概況 | 14.業績予想の修正について |
| 3.四半期ごとの業績の推移 | 15.23年3月期通期見通し |
| 4.計測・計量機器事業 実績-1 | 16.計測・計量機器事業 見通し-1 |
| 5.計測・計量機器事業 実績-2 | 17.計測・計量機器事業 見通し-2 |
| 6.DSP事業の業績 | 18.医療・健康機器事業 見通し-1 |
| 7.医療・健康機器事業 実績-1 | 19.医療・健康機器事業 見通し-2 |
| 8.医療・健康機器事業 実績-2 | 20.MBSim次世代試験ツール |
| 9.財務分析(貸借対照表)① | 21.ピペット校正ツール |
| 10.財務分析(貸借対照表)② | 22.振動式粘土計のJIS規格化 |
| 11.財務分析(キャッシュフロー) | 23.医療ICT向け機器の展開について |
| 12.設備投資・減価償却費の推移 | 24.補足資料 |

第2四半期(累計)業績の総括

ハイライト

-  国内および欧米の企業業績の回復に伴い売上が回復（前年同期比14.7%増）
-  売上の回復に伴い営業利益が改善、第2四半期（7月～9月）は黒字転換
-  DSP事業についてはA & Dの認知度の高まりに伴い、前下半期に引き続き引合いおよび受注が伸長しているが、大型の設備投資の抑制が予想以上に継続

第2四半期(累計)の概況

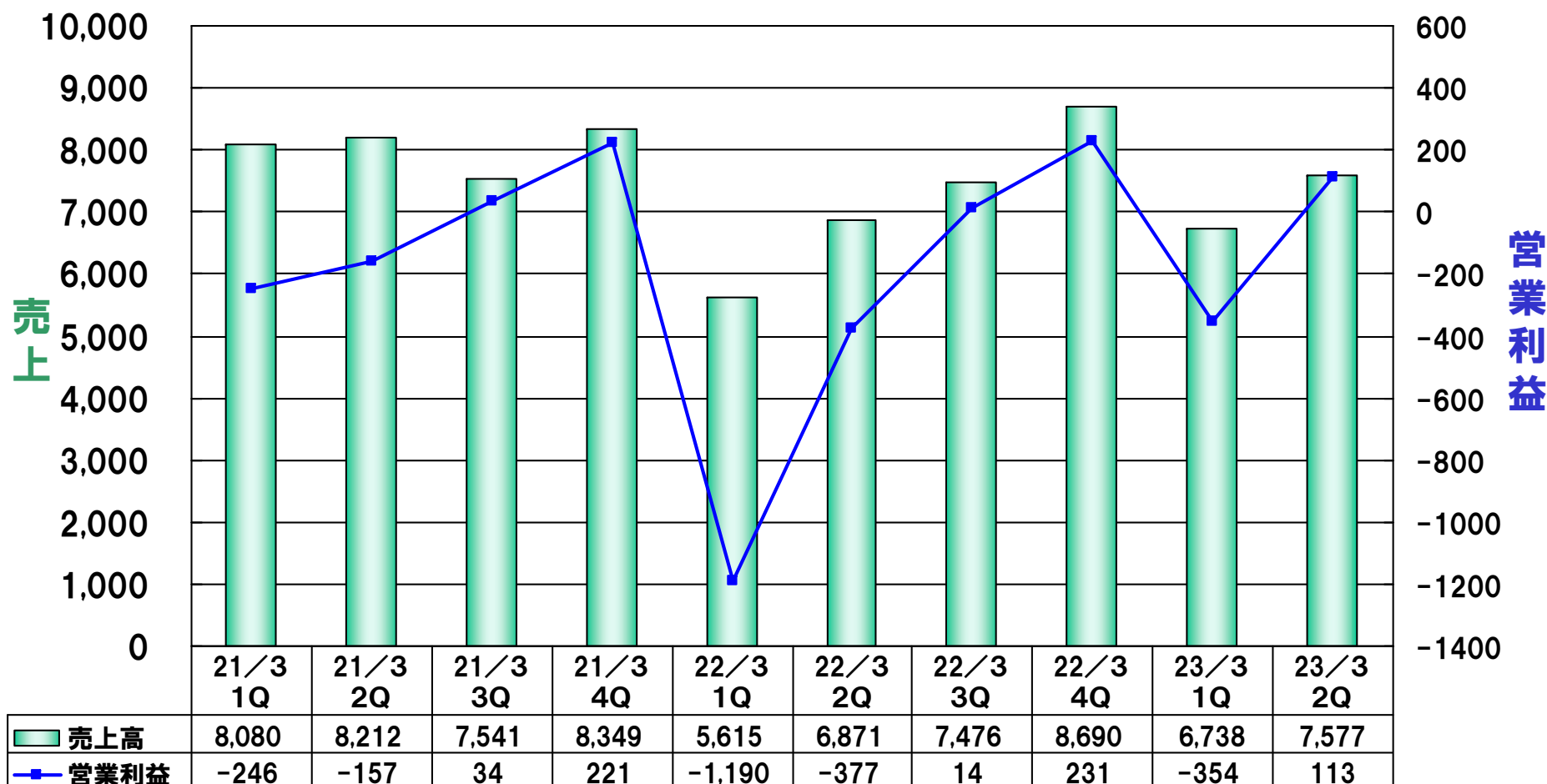
(単位：百万円)

連結損益	22 / 3 期 2 Q 累 計	23 / 3 期 2 Q 累 計	前 年 同 期 比	2 Q 累 計 予 想	予 想 比	コ メ ン ト
売 上 高	12,486	14,316	14.7%	15,300	-6.4%	
売 上 原 価	7,227	7,835	8.4%	8,250	-5.0%	売上回復に伴う稼働率の上昇 およびコストダウンで原価率が前 年度58%から55%に低減
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	6,826	6,721	-1.5%	6,750	-0.4%	
営 業 利 益	-1,567	-241	- %	300	- %	
経 常 利 益	-1,469	-461	- %	80	- %	
税 引 き 前 利 益	-1,504	-500	- %	60	- %	
当 期 純 利 益	-2,192	-590	- %	450	- %	
1 株 当 たり 利 益 (円)	-109.00	-29.34	- %	22.37	- %	

(注) 22年3月期2Q累計予想は、5月14日付の「平成22年度3月期決算短信」にて発表した予想であります(以下同じ)

四半期ごとの業績の推移

単位(百万円)



例年上半期は1Q・2Qともに営業損益が赤字になる傾向にあったが、今期は第2四半期で黒字転換し、業績は回復基調

計測・計量機器事業 実績－1

(単位:百万円)

セグメント			22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	増減額	前年 同期比
計測・計量 機器事業	売上	外部売上	6,711	8,054	1,342	20.0%
		セグメント間	1,129	1,730	602	53.3%
		合計	7,840	9,784	1,944	22.7%
	売上原価		5,336	6,548	1,212	22.7%
	販管費		3,756	3,667	-89	-2.4%
	営業利益		-1,252	-431	821	-%

1. 計量機器・DSPを中心に業績が回復

⇒売上は前年同期比20.0%増

2. 大型の試験機・分析機器などの高額物件(計測)については、設備投資抑制が続いた影響で売上は低調であった

3. 営業損益2Q予想を下回るものの、売上回復に伴い前期比では821百万円の改善

(注) 新会計基準の適用により23/3期よりセグメント情報の集計方法が変わりました。
22/3期の数値は新方式に組み替えた数値を記載しております(以下同様)

計測・計量機器事業 実績－2



(単位:百万円)

製 品 種 別	2 2 / 3 期 2 Q 累計	2 3 / 3 期 2 Q 累計	前 年 比 同 期 比	2 Q 累 計 予 想	予 想 比
計 測 機 器	1,552	1,202	-22.5%	1,560	-23.0%
計 量 機 器	4,091	5,049	+23.4%	5,150	-2.0%
計測・制御・シミュレーションシステム(新規)	1,036	1,619	+56.3%	1,700	-4.7%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	32	184	+472.5%	140	+31.1%
売 上 合 計	6,711	8,054	20.0%	8,550	-5.8%

計測機器

：中・小型製品の売上は回復基調にあるものの、大型機器が設備投資抑制の影響で、部門としては前期比マイナスとなった。

計量機器

：前年度下半期以降、回復基調が続いている

DSP

：認知度の高まり、ラインアップ充実に伴い、引合い・売上ともに上向いている

電子ビーム関連ユニット

：依然として低迷しているが半導体市況の回復に伴い、業績は上向きつつある

DSP事業の業績

(単位:百万円)

	用 途 種 別	21/3期 (実績)		22/3期 (実績)		23/3期 (実績)
		上期	下期	上期	下期	上期
新規事業	自動車関連	1,465	1,722	880	1,396	1,461
	試験機関連	51	41	29	59	41
	その他	86	162	127	176	117
	小 計	1,602	1,925	1,036	1,630	1,619
既存事業への DSP技術応用	特殊試験機関連	39	126	8	135	39
	計量制御関連	63	95	48	82	53
	医療機器					
	小 計	102	221	56	217	93
合 計		1,704	2,146	1,092	1,847	1,712
売上合計 (通期)		3,850		2,940		1,712

自動車開発関連および試験機の受注が復調し、売上も前年同期比56%増加している

医療・健康機器事業 実績－1

(単位:百万円)

セグメント			22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	増減額	前年同期比
医療・健康 機器事業	売上	外部売上	5,774	6,262	487	8.4%
		セグメント間	3,683	5,764	2,081	56.5%
		合計	9,458	12,026	2,568	27.4%
	売上原価		6,778	8,636	1,858	27.4%
	販管費		2,470	2,448	-22	-0.9%
	営業利益		210	942	732	347.9%

1. ロシアの景気回復に伴い家庭用血圧計は売上が急速に回復しているものの、国内の医療機器事業が不調で、売上は前年同期比8.4%増に留まる
2. 家庭用血圧計の売上伸長に伴い営業利益が増加した

医療・健康機器事業 実績－2

(単位:百万円)

製 品 種 別	2 2 / 3 期 2 Q 累 計	2 3 / 3 期 2 Q 累 計	前 同 期 年 比	2 Q 累 計 予 想	予 想 比
医 療 機 器	1,114	1,014	-9.0%	1,140	-11.1%
健 康 機 器	4,660	5,248	12.6%	5,610	-6.4%
売 上 合 計	5,774	6,262	8.4%	6,750	-7.2%

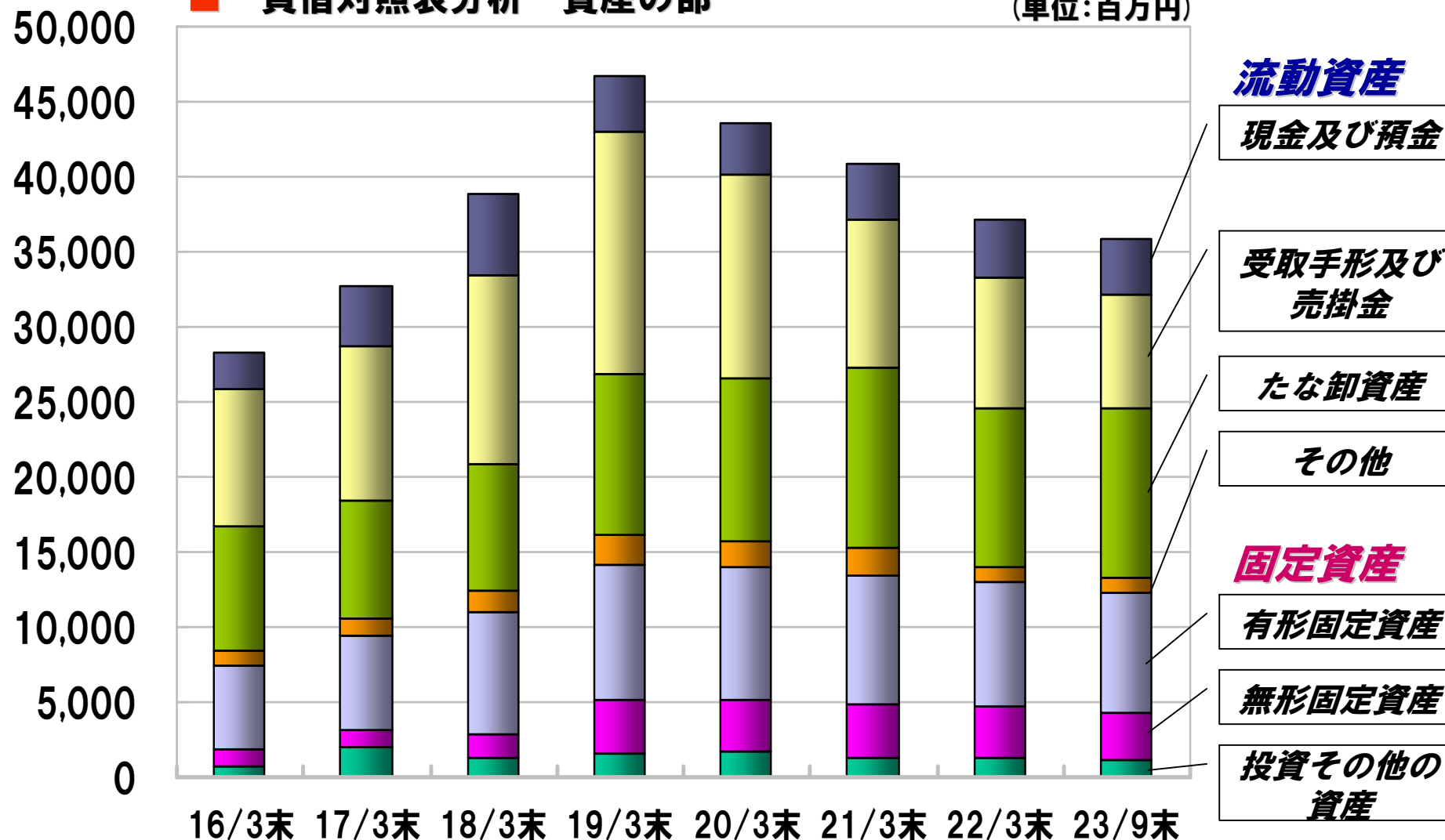
医療機器：メディカル計量器を中心に国内・海外とも堅調だが、国内での新製品の導入が遅れたため、売上が前年割れとなった

健康機器：家庭用血圧計は、ロシアの景気回復に伴い売上が急速に回復しているものの、国内および米国が伸び悩み売上が前年同期比12.6%増に留まる

財務分析(貸借対照表)

貸借対照表分析 資産の部

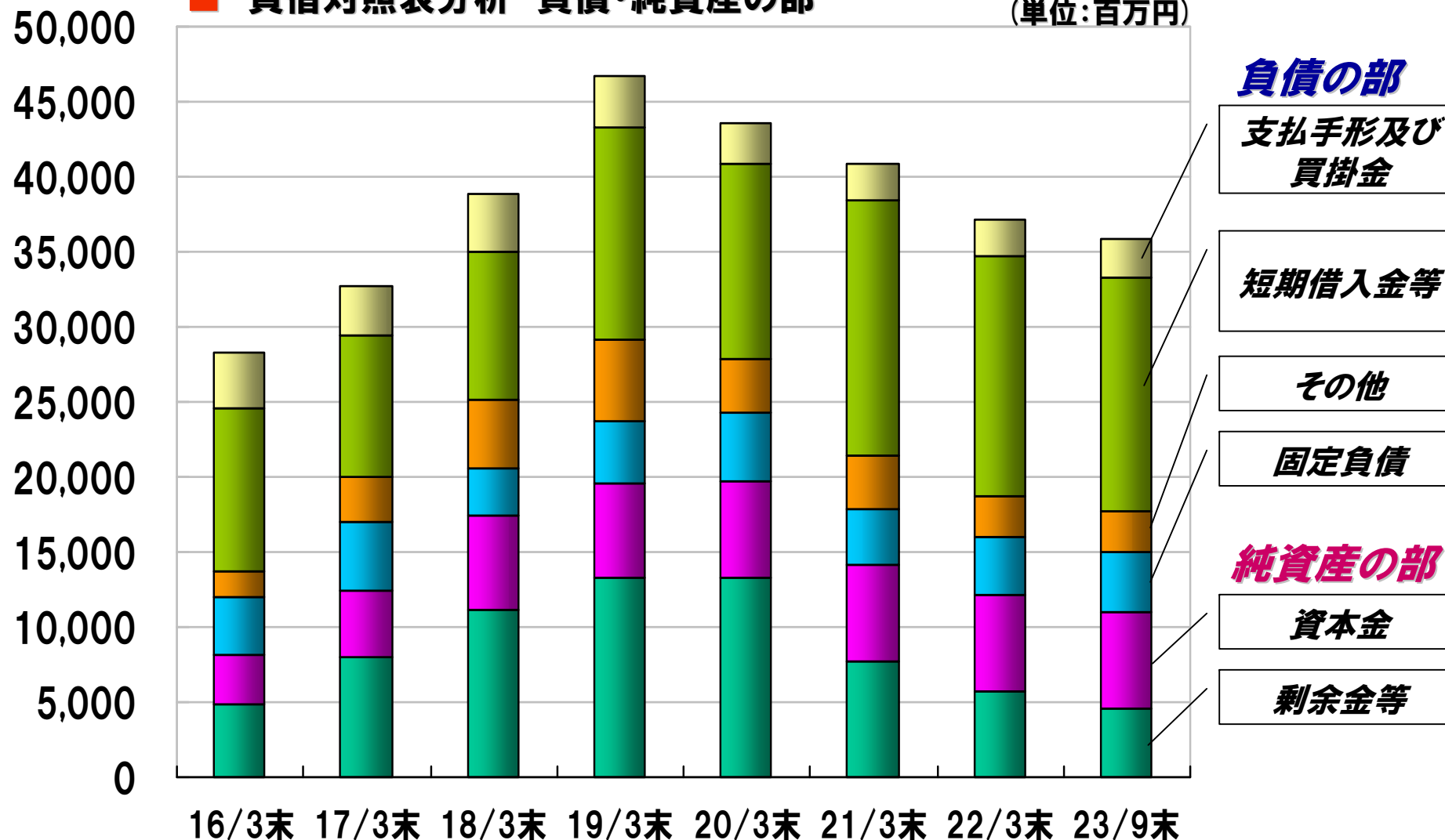
(単位:百万円)



財務分析(貸借対照表)

■ 貸借対照表分析 負債・純資産の部

(単位:百万円)



財務分析(キャッシュフロー)

■ キャッシュフロー分析

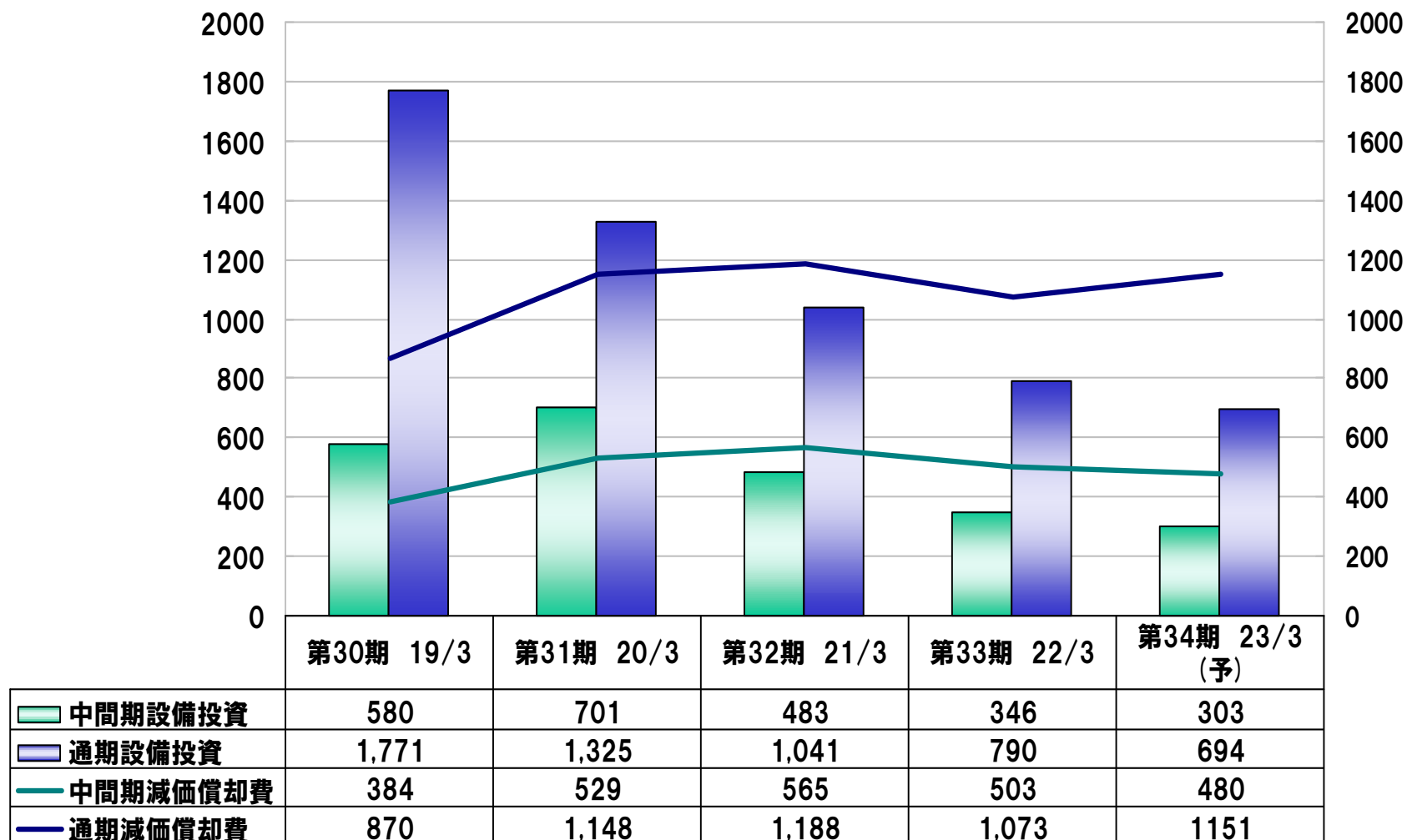
(単位:百万円)

連結キャッシュフロー	22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	コメント
営業活動によるCF	1,324	306	たな卸資産の増加△1,158、売上債権の減少833、債務仕入の増加577
投資活動によるCF	△653	△452	有形固定資産の取得△253、無形固定資産の取得△143
財務活動によるCF	△677	173	長期借入金の増加1,054、短期借入金の純増75、長期借入金の返済△977
現金及び現金同等物の増加額	△31	△117	
現金及び現金同等物の期末残高	2,868	2,730	

設備投資・減価償却費の推移

(単位:百万円)

(単位:百万円)



売上および受注は回復しつつあるが、慎重を期し設備投資を抑制中

期初の予想・上期の現況・今後の方針について

	期初の予想	上期の現況	今後の方針
市場環境	設備投資は回復基調 円高の継続	各国の通貨安政策により 円高が更に進行し、先行 き不安から大規模投資抑 制が継続	円高による企業業績の悪 化を前提に保守的に予測
売 上	前期の第1四半期を底 に引合い・受注・売上が 回復勢にあったため、前 期比16.5%増で予想	全社では前期比14.6%増 と伸長したが、大型設備 の売上回復ペースが予想 を下回った	大規模設備投資の本格回 復は見込めず、また更なる 円高の進行を見込んで、前 期比8.2%増に下方修正
コスト	前年度に実施した大幅コ ストダウンを継続しつつ、 売上成長を見込んだコス ト計画	ほぼ予定通りに推移	引き続きコストダウンを継続 し、企業体質の強化に努め る
損 益	ロシア現法の業績回復 および大型設備の売上 回復により黒字化すると 予想	ロシア現法は計画通り業 績回復したものの、大型 設備の売上が予想を下回 り利益率が低下	更に円高が進行すると連結 海外子会社の実績が円換 算で目減りすることが予想 されるが、売上高の伸長お よびコスト引締めの継続で 通期黒字化を目指す

業績予想の修正について



(単位：百万円)

	上期業績予想			通期業績予想		
	前回発表予想 (2010.5.14発表)	今回修正予想 (2010.10.29発表)	増減額	前回発表予想 (2010.5.14発表)	今回修正予想 (2010.10.29発表)	増減額
売上高	15,300	14,300	-1,000	33,400	31,000	-2,400
営業利益	300	-240	-540	1,600	780	-820
経常利益	80	-460	-540	1,160	390	-770
当期純利益	450	-590	-1,040	1,430	700	-730
1株当たり利益 (円)	22.37	-29.33	-	71.08	34.79	-

修正の理由

大型の試験機・分析機等の高額物件が設備投資抑制の影響で、引合いこそ増加しているものの受注・売上の本格的な回復には至らず、まだ当面は厳しい状況

円高の影響については、輸出入はおおむねバランスしておりリスクヘッジを進めているものの、現状より更に円高が進行した場合には海外連結子会社の業績が円換算では目減りすることが予想される

下期の想定為替レート ()内は期初の想定レート

1\$ = ￥80 (￥90)

1ループル = ￥2.7 (￥3.0)

23年3月期通期見通し

(単位：百万円)

連結損益	22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前期比
		上期実績	下期予想		
売上高	28,651	14,316	16,684	31,000	8.2%
売上原価	16,445	7,835	8,875	16,710	1.6%
販売費及び一般管理費	13,528	6,721	6,789	13,510	-0.1%
営業利益	-1,322	-241	1,021	780	- %
経常利益	-1,356	-461	851	390	- %
税引き前利益	-1,403	-500	850	350	- %
当期純利益	-2,238	-590	1,290	700	- %
1株当たり利益(円)	-111.25	-29.34	64.14	34.80	- %

※23/3期(予想)は10月29日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表した予想です

計測・計量機器事業 見通し-1

(単位:百万円)

セグメント			22/3期 (実績)	上期実績	下期予想	23/3期 (予想)	前期比
計測・計量 機器事業	売上	外部売上	15,595	8,054	9,116	17,170	10.1%
		セグメント間	2,517	1,730	1,411	3,141	24.8%
		合計	18,112	9,784	10,527	20,311	8.1%
	売上原価		12,177	6,548	6,613	13,161	8.1%
	販管費		7,391	3,667	3,693	7,360	-0.4%
	営業利益		-1,456	-431	221	-210	-85.6%

1. 売上

DSPは引合・受注が急速に回復、また計量機器も堅調に売上が推移しているが、計測機器の業績回復遅延を見込み、前期比10.1%売上増加と予測

2. 売上原価・販管費

売上増加による粗利益率の上昇と販売管理費の抑制継続（前期並み）により、下期での営業利益黒字転換を目指す

計測・計量機器事業 見通し-2

(単位:百万円)

製 品 種 別	22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前 期 比
		上 期 実 績	下 期 予 想		
計 測 機 器	3,541	1,202	1,598	2,800	-20.9%
計 量 機 器	8,917	5,049	5,210	10,260	15.1%
計測・制御・シミュレーションシステム (DSP)	2,666	1,619	2,141	3,760	41.0%
電子ビーム関連ユニット	471	184	166	350	-25.7%
売 上 合 計	15,595	8,054	9,116	17,170	10.1%

計測機器

：サム電子機械・ベスト測器と連携強化、電池の材料試験の分野において物性試験機等の拡販を図るが、大型設備投資の回復は遅れる見込み

計量機器

：ピペットのリークテスタ・容量テスタ及びマイクロ天秤等により、研究室等の分析市場を攻略する

AD-7011の応用で新市場の獲得、及びAD-7011のコスト削減を目指す

DSP

：開発コンセプトMBSimの更なる浸透、タイヤラベリング制度開始に伴うタイヤ業界への拡販、アライアンスによるバッテリー充放電器の開発

電子ビーム関連ユニット：市況環境は厳しいが、電子ビーム等を利用した応用市場の開拓を進める

医療・健康機器事業 見通し-1

(単位:百万円)

セグメント			22/3期 (実績)	上期実績	下期予想	23/3期 (予想)	前期比
医療・健康 機器事業	売上	外部売上	13,056	6,262	7,568	13,830	5.9%
		セグメント間	8,259	5,764	5,496	11,260	36.3%
		合計	21,315	12,026	13,064	25,090	16.4%
	売上原価		15,289	8,636	9,154	17,790	16.4%
	販管費		4,961	2,448	2,492	4,940	-0.4%
	営業利益		1,065	942	1,418	2,360	121.6%

1. 売上

ロシアにおける家庭用血圧計の復調および医療機器の業績回復遅延を考慮し、売上は前期比5.9%増を見込む

2. 営業利益

家庭用血圧計の売上回復による稼働率向上により、利益率が向上

医療・健康機器事業 見通し-2

(単位:百万円)

製 品 種 別	22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前 期 比
		上 期 実 績	下 期 予 想		
医 療 機 器	2,237	1,014	1,186	2,200	-1.7%
健 康 機 器	10,819	5,248	6,382	11,630	7.5%
売 上 合 計	13,056	6,262	7,568	13,830	5.9%

医療機器：・開発スピードを上げて積極的に新製品投入を図る

- ・栄養管理治療への保険点数付与（医科向け計量器需要）等、市場ニーズを的確に捉えて営業を展開する

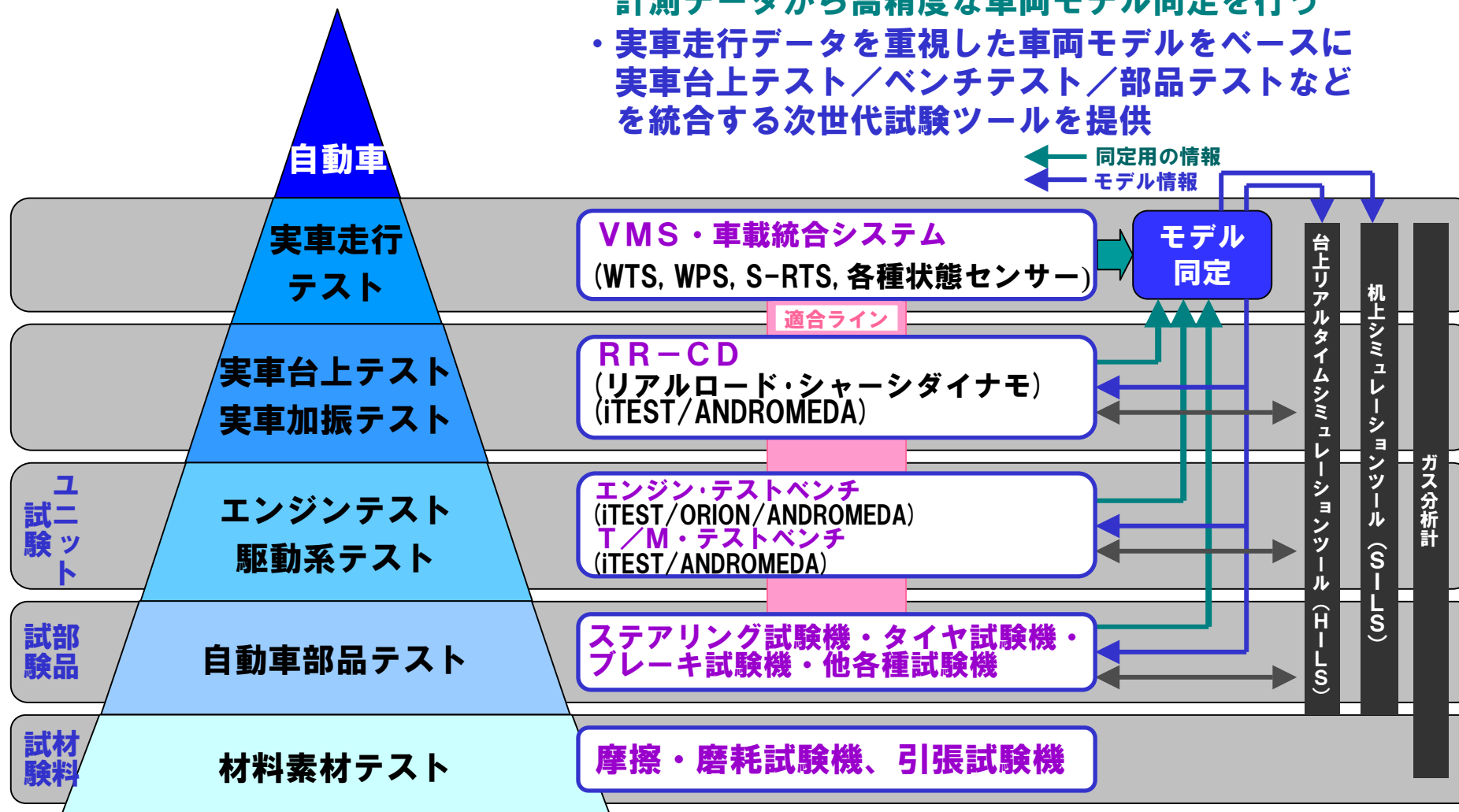
健康機器：・ロシアにおいては競争優位性の確保、伸びが期待出来るアジアマーケット（中国、韓国）では市場拡大を促進

- ・IT技術活用により、近年欧米を中心に活発となってきた在宅医療および医療ICT（Information Communication Technology：情報通信技術）向け機器分野での売上伸張を図る

トピックス1～MBSim次世代試験ツール

MBSimの体系

- ・ 実車走行データを1/1000以上の精度で計測し、計測データから高精度な車両モデル同定を行う
- ・ 実車走行データを重視した車両モデルをベースに実車台上テスト／ベンチテスト／部品テストなどを統合する次世代試験ツールを提供



トピックス2～ピペット校正ツール

ピペット校正市場への参入

- ・ピペットの検査ツール（2種）の提供でピペットユーザーが自分でピペットの点検・修理が可能となる
- ・販売店にとってはピペットの校正サービスを通じての営業ツールとして有用

ピペット容量テスター

正確で簡単にピペット使用現場での容量検査ができる

国際規格ISO8655に準拠



リークテスター

マイクロピペットの漏れ（リーク）の検査が可能となる



トピックス3～振動式粘度計のJIS規格化

振動式粘度計が J I S 規格に採用

- ・従来は海外も含め振動式粘度計に関する規格がなかった
- ・平成19年よりJCSSにおいて粘度の校正事業が整備され、粘度についての計量計測学的トレーサビリティが確保されたことに続き、振動式粘度計がJIS規格に採用され国家基準となる
- ・これにより粘度計測の信頼性・認知度が高まり粘度計普及の契機となる
- ・各種審議を経て平成23年に正式施行



トピックス4～医療ICT向け機器の展開について

高齡化社会における予防医療と医療業務の効率化に向けて

医療機器の通信プロトコルの標準化の流れの中、2009年に、世界で初めてContinua規格（注）の認証を取得したBluetooth通信機能付き家庭向け血圧計、体重計を開発



Bluetooth通信対応の体重計・血圧計

医療機関向け、家庭向け機器の双方を手がけているメーカーとしての強みを生かしながら、医療健康情報のICT化に対応した通信機能付き機器の拡充を行っていく

（注）Continua

intel社を始めとした全世界の大手家電、通信、医療、製薬、保健など、さまざまな分野から200社以上が参加している健康機器の通信規格を標準化する非営利団体



全自動血圧計とロボットとの連携

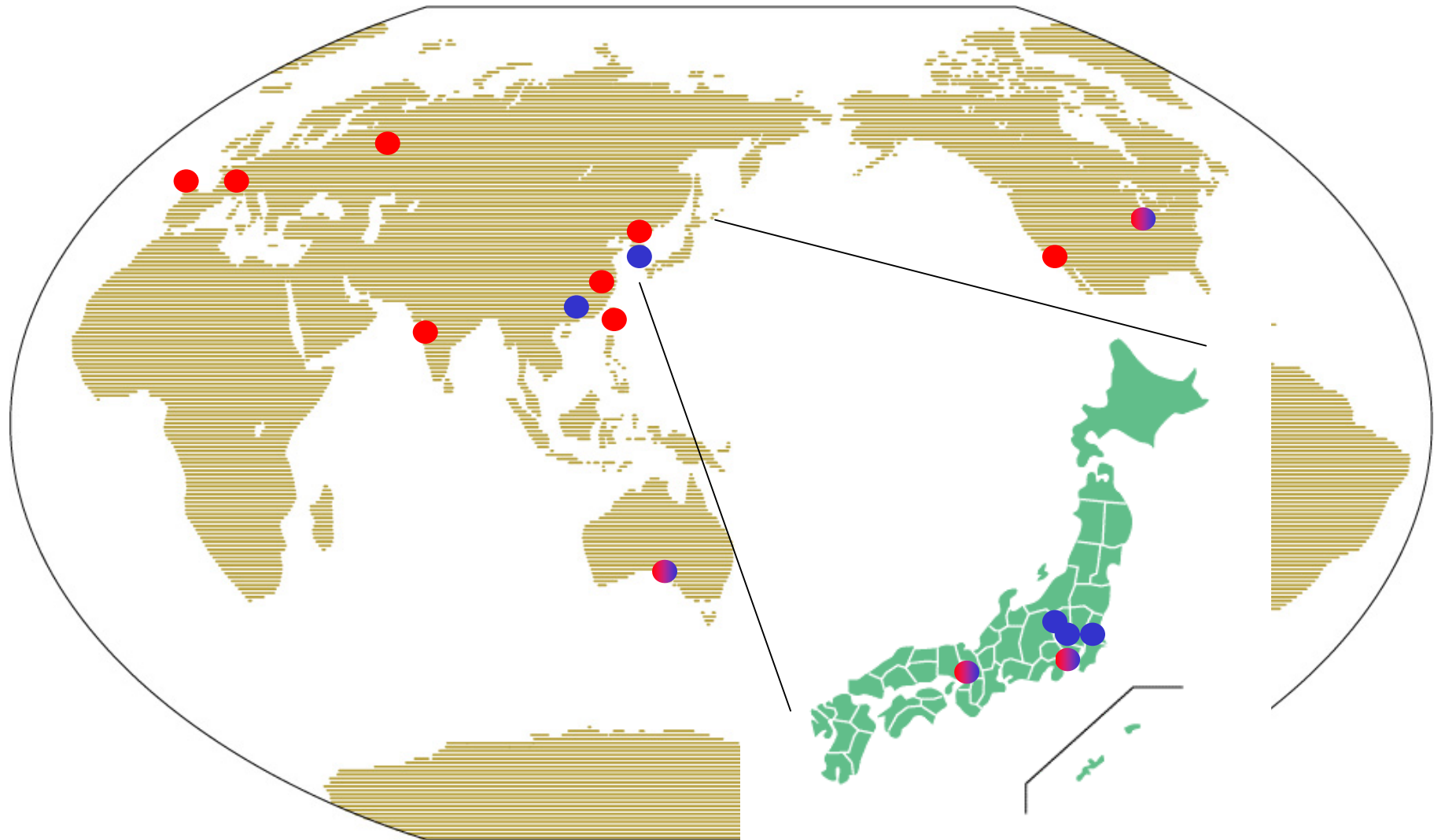


補足資料



- 1 グループの概要
- 2 製品紹介（計測機器）
- 3 製品紹介（計量機器）
- 4 製品紹介（医療・健康機器）
- 5 DSPシステムとは
- 6 DSPシステムの採用事例－1
- 7 DSPシステムの採用事例－2
- 8 電子ビーム関連ユニット
- 9 開発の状況

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

- 生産・開発関係会社
- 販売関係会社

製品紹介(計測機器)

種 別	概 要	主 要 製 品
波 形 解 析	音・振動等時間的に変化する物理信号を収集および解析	波形解析システム、FFTアナライザ、データロガー
非破壊検査機器	超音波を利用して溶接欠陥や亀裂・腐食等を調査	超音波探傷器、超音波厚さ計
材 料 試 験 機	材料・部品の引っ張り圧縮強度や粘弾性・粘度を測定	引張圧縮試験機、動的粘弾性測定機、粘度計、摩擦摩耗試験機
電 子 計 測 器	プロからホビーや家庭まで、多種多様に取り揃えたデジタル電子計測機器	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、タイマー、温湿度計、直流電源、壁内センサーetc.
油 圧 試 験 装 置	油圧サーボ機構を応用した各種試験装置	油圧式疲労試験機、油圧式振動試験機、油圧加振機等
環 境 計 測 機 器	各種排気ガス濃度測定器を始めとする環境計測機器	エンジン排ガス計測機器、燃料電池関連計測機器、各種ガス分析計等



波形解析システム

引張圧縮試験機



防水ペン型温度計



オシロスコープ



超音波探傷器

製品紹介(計量機器)

種 別	概 要	用 途 等
電子天びん	軽量の物体の質量を高精度に計量する機器で、最大0.01mgまでの計量が可能	医薬品や精密材料等を対象に、研究開発向けから生産・検査まで幅広く使用
電子台秤	中・重量の物体の重量を計量する機器で、防水、防塵、防爆等、様々な環境に対応	厳しい環境下で使用される産業用から家庭で使用されるものまで、幅広い製品群をラインナップ
インジケータ	計量センサから得た信号を質量や力としてデジタル表示、及び制御を行う	粉・粒状物体の自動計量システム、台秤、トラックの積載量を計量するトラックスケール等に使用
ロードセル	金属製の起歪体に加わった荷重による歪みを検出して、電気抵抗値に変換するセンサ	台秤、トラックスケール、フックに吊り下げて計量するクレーンスケール、その他特殊用途に使用



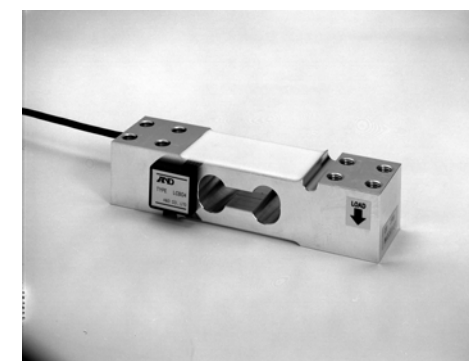
電子天びん



電子台秤



インジケータ



ロードセル

製品紹介(医療・健康機器)

種 別	概 要	主 要 製 品		特 徴 等
病 院 用 デジタル血圧計	医療機関 や高齢者 介護施設 向血圧計	携帯型自動血圧計		24時間の日常生活での血圧変動を測定
		血 圧 監 視 装 置		SpO2(動脈血酸素飽和度)と血圧を同時監視
		バイタルセンサ		血圧・体温・SpO2・ECG等バイタルサイン測定
		全 自 動 血 圧 計		腕を入れるだけでワンタッチ操作の自動測定
メ デ ィ カ ル 計 量 器	医療機関 や高齢者 介護施設 向計量器	身 長 体 重 計		身長・体重をデジタル測定、肥満度等也表示
		ベ ッ ド ス ケ ー ル		治療時の体重変化を測定、監視、記録
		バ リ ア フ リ ー ス ケ ー ル		フラットな計量台、車イス乗車のままや、手すりにつかまった状態で安全に計測
健 康 機 器	在宅での 健康管理 用機器	デ ジ タ ル	上腕式	血圧測定に不規則脈波検知、音声等も付加
		血 圧 計	手首式	小型・軽量サイズで外出先でも手軽に血圧測定
		超 音 波 吸 入 器		温熱、加湿効果でノド、鼻の不快感を緩和
		体 重 計		50 g 単位、肥満・痩せの基準BMI 也表示



携帯型
自動血圧計



血圧監視装置



全自動血圧計

手首式家庭向
デジタル血圧計



家庭向体重計



上腕式家庭向
デジタル血圧計

DSPシステムとは

DSPシステム

■ DSPシステムの特徴

◇自動車等の複雑な製品の開発・生産現場において、開発期間の短縮・ローコスト化を実現する画期的なシステムです

つないでテストする



エンジンの試作品



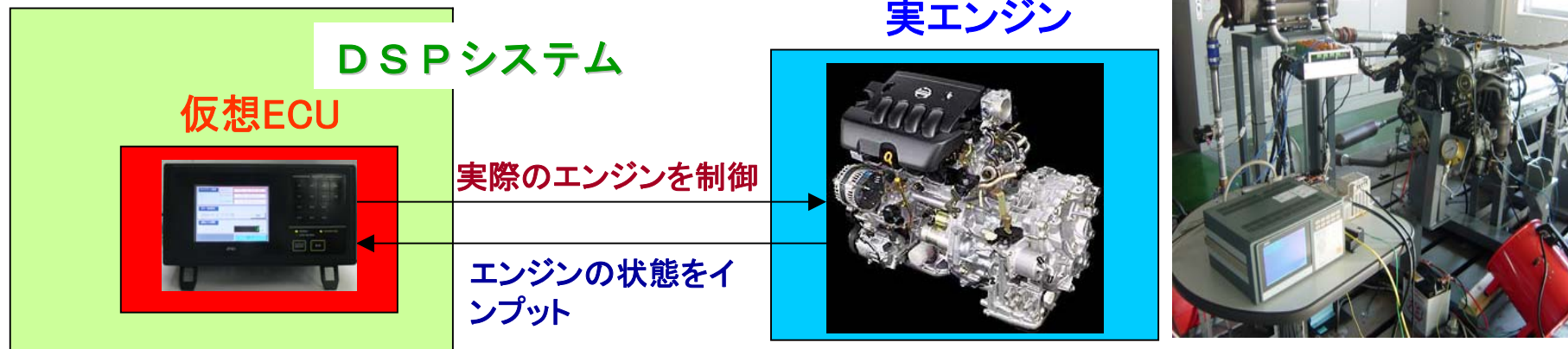
エンジン以外の車両部分をコンピュータにモデル化

エンジン以外の部分が完成していなくても、エンジンを実際の車両に搭載した場合を想定したテストを行う事が可能

DSPシステムの採用事例－1

RPT (Rapid Proto Type)

コンピュータ上にECUの試作モデルを作成して、実際のエンジンを制御してテストを行う



HILS (Hardware In the Loop Simulation)

コンピュータ上に仮想のエンジンや車両のモデルを作成して、試作品のECUのテストを行う



DSPシステムの採用事例-2

ORION

適合支援自動計測
ソフトウェア

1. 適合とは

ECU開発プロセスで、ECUがエンジンや変速機などの制御を最適に行うためにECUの設定作業（チューニング）を行うこと。

2. ORIONの特徴

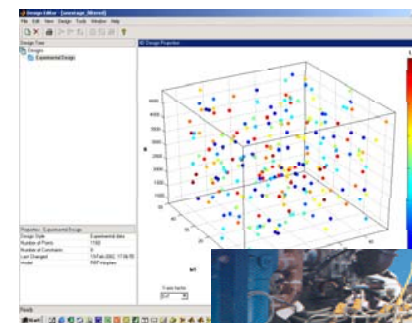
・フレキシビリティ

カスタマイズが容易で、ユーザーが計測アルゴリズムの作成等、各自の仕様に合わせて設定を変更出来る

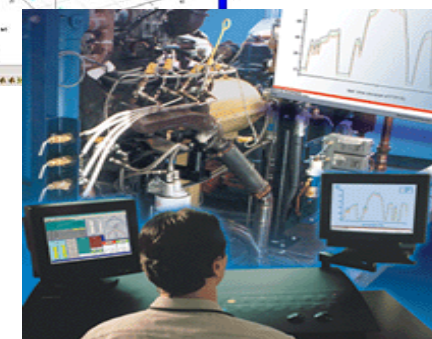
・オープン性

他のシステムとの接続が可能であり、今まで使用していた資産の有効活用が可能

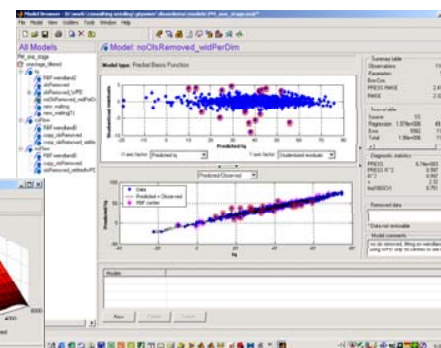
実験計画



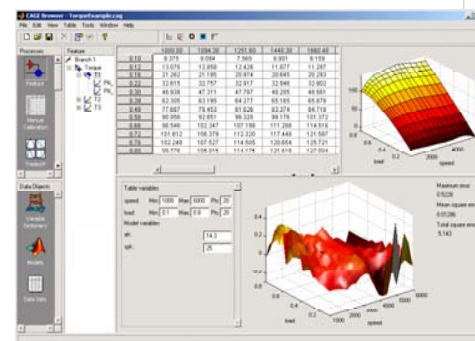
評価試験



ECUのモデル化



適合



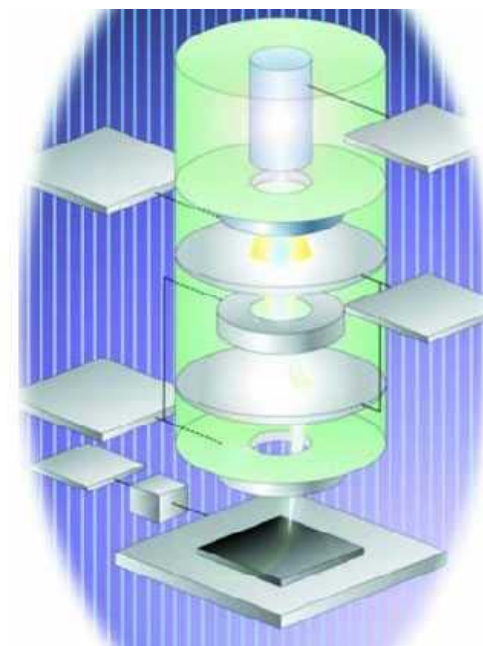
電子ビーム関連ユニット

電子ビーム関連ユニット

微細な半導体の回路を描画するための手段として、主にマスク製造（半導体のネガの様なもの）に電子ビームが利用されていますが、当社は電子ビーム露光装置に組み込む基幹ユニットを半導体露光装置メーカーに提供しています

当社が提供する主要なユニット

- ビーム偏向回路
電子ビームの照射方向を制御するもので、精度・速度ともに世界最高水準です
- 電子銃
電子ビームを発生させる設備で、世界でもトップクラスの出力と安定稼働率を備えています



開発の状況

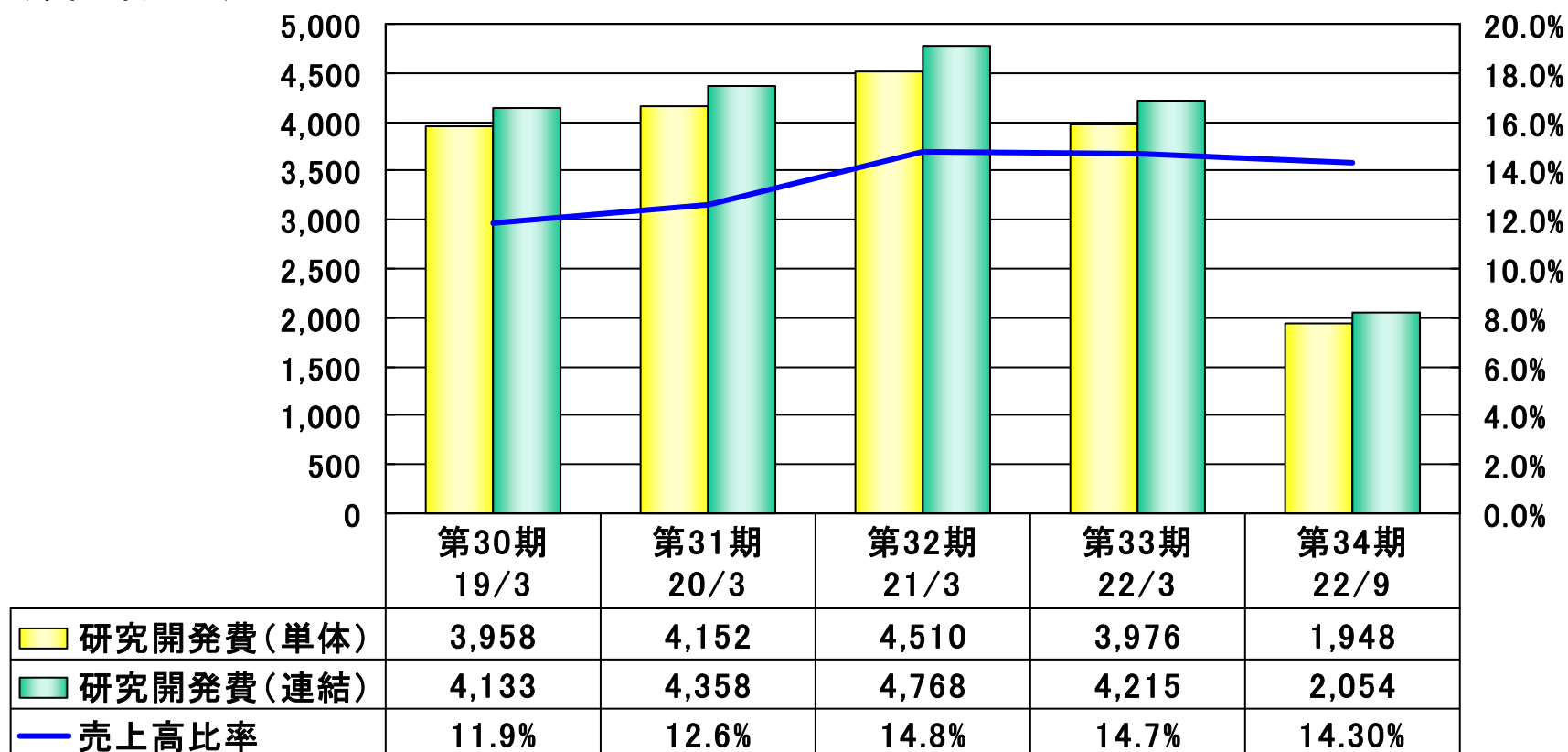


社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成22年9月末/A & D単体)

既存事業 181名 (52.8%) 開発人員比率
新規事業 162名 (47.2%) (単体) は50.1%
合 計 343名 比率

研究開発費
(単位:百万円)



※売上高比率は連結売上で算出

